

アジアにおける温室効果ガスインベントリ  
整備に関するワークショップ  
第14回会合(WGIA14)の結果について

平成29年2月  
環境省地球環境局低炭素社会推進室

# WGIA14の結果について①

## WGIAとは

環境省と国立環境研究所が、アジア地域諸国の温室効果ガスインベントリの精度向上と、地域の協力関係の促進を目的に、2003(平成15)年度より毎年開催しているワークショップ。

※ WGIA: *Workshop on Greenhouse Gas Inventories in Asia* の略

## WGIA14の開催

2016(平成28)年度は、7月26～28日にモンゴル・ウランバートルにおいて、メンバー国のうち13カ国の政府関係者、研究者及び国際機関の参加を得て第14回会合(WGIA14)を開催した。

**参加者** ブルネイ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、韓国、タイ、ベトナムの政府関係者、研究者、関連国際機関等(総計93名)

- 主な議題**
- ・ 温室効果ガスインベントリの分野毎の相互学習
  - ・ 国別報告書(NC)、隔年更新報告書(BUR)の報告
  - ・ GHGインベントリ及びBURにおける国内体制の整備
  - ・ BURの国際的協議・分析(ICA)に関するグッドプラクティス
  - ・ インベントリや緩和に関わるコベネフィットや関連支援活動



↑ 全体会議の様子



↑ 分野毎の相互学習風景(小グループ)

## WGIA14の結果について②

### WGIA14の成果

- 国際的協議・分析(ICA)の中で隔年更新報告書(BUR)の技術的分析(TA)と促進的な意見の共有(FSV)が行われることを見据えて、より透明性の高いインベントリを作成する必要性と、定期的にインベントリを含むBURを作成するための国内体制の重要性等が認識され、ICAの経験を次回提出のBURやNDCに反映していきたいとの発言があった。
- 観測等の関連研究と、インベントリの精度の改善との間に、コベネフィットがあることが共有され、さらにインベントリは他方面へのコベネフィットがあることを念頭に置いておくことが重要であることが確認された。
- 相互学習は自国や他国の状況を理解する良いきっかけになり、インベントリを含むBURの改善につながったとの認識等が共有された。



←WGIA14参加者

### 今後の方向性

来年度の第15回会合(WGIA15)はミャンマーでの開催を検討中である。相互学習、およびICAの経験を踏まえてのBURとそれに含まれるインベントリの改善のための議論を行う。